

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
桜ヶ丘中央病院移転新築工事

使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010
評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境			0.40					3.1
1 音環境		3.0	0.15	2.3	1.00			2.9
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.2	0.40	2.4	0.40			
1 開口部遮音性能	遮音等級T-2、T-4	5.0	0.40	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能		2.0	0.60	1.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	2.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		2.7	0.35	2.8	1.00			2.7
2.1 室温制御		3.2	0.50	3.4	0.50			
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能	外壁・屋根・外床に断熱材を使用し、外皮性能を上げている。	4.0	0.25	4.0	0.43			
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		3.0	0.25	3.6	1.00			3.1
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.2	0.30			
1 昼光率	共用部分の昼光率2.5%以上、宿泊部分の昼光率1.25%以上	5.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.30			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御	カーテン、庇の、2種類以上を組み合わせることで制御。	2.0	1.00	4.0	1.00			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気環境		3.9	0.25	3.8	1.00			3.8
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	F をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.30	3.6	0.38			
1 換気量	建築基準法及び建築物衛生法を満たす換気量の1.25倍、	3.0	0.50	4.0	0.33			
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。	-	-	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御	全館禁煙。	5.0	1.00	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.4
1 機能性		3.6	0.40	3.8	1.00			3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性	個室14.9㎡/床で、かつ、多床室8.2㎡/床以上。	-	-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	2.0	0.40			
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
3 内装計画	ワックスフリー床材の採用。ホテルライクなインテリア環境の演出。	5.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.5	0.31	-	-			3.5
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-			
1 耐震性	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。	4.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。	5.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.4 信頼性			3.4	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	設備の重要度に応じて系統を区分、吊配管などを行っている。	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.2	0.29	2.4	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			3.4	0.31	1.8	0.50	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	建物全体・共用部分 0.1 [壁長さ比率(0.18)] < 0.3	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース	敷地内に駐車スペース等、屋上室外機置場にバックアップスペース。	4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制		バルコニー設置、二重サッシ採用、断熱材強化による熱負荷の軽減。	3.9	0.30	-	-	3.9
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		高効率機器の採用。	5.0	0.30	-	-	5.0
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)		ERR=36.2%	5.0	-	-	-	
集合住宅の評価			9.0	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1	節水		3.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	GL工法を採用している。OAフロアを採用している。	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.68	-	-	
1	消火剤	ハロン消火剤を一切使用していない。	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材等を使用。	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物に対して71%。	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	指導された規模、かつそれ以上の雨水処理対策を実施している。	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車スペースの確保。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	